



第17回卒業証書授与式

17期生 26名が巣立ちました



3月3日(火)第17回卒業証書授与式を戸畑校舎体育館で行いました。26名の卒業生が北九州中央高等学園の戸畑校舎より旅立っていきました。中央高等学園の卒業式は、全校生徒が出席をして実施しています。卒業生を全校生徒で送り出せることは大変幸せなことです。

式の中でお話ししたことを改めてお伝えします。

「中央高等学園の誇り」
皆さんの挨拶は、広く認められている確かな力です。先日の移行支援会議でも企業の方が挨拶は職場にとって大事ですとお話しされていました。

伝統の「アンカー」として
17期生は戸畑校舎最後の卒業生となりました。戸畑校舎の最後の走者として、中央高等学園の伝統というタスキを手にして社会で活躍してください。

「society5.0」の時代を生きる人として
デジタル技術が高度に発達し、あらゆるものがつながる時代になっていくといわれています。変化のスピードが速く、時には予測不可能な出来事が待ち受けているかもしれません。しかし、どのような世の中になっても、社会を動かす根本にあるのは「人」です。そして、AIが代わりに決めてくれないもの、それは「自分自身の人生をどう生きるか」ということです。

「自ら考え、自ら決める」~ひとつ上を目指す~
ただひとつの正解のない society5.0の時代において、誰かが用意した道筋(正解)ではなく、自己選択と自己決定でその時々の時に最適な答えを自分で作り出していく力が求められています。そして、ひとつ上を目指して昨日の自分よりも、今日の自分を少しだけ誇れるように。現状に満足せず、自ら考え、一歩先へと足を踏み出す勇気を持ってください。

「感謝」
ミラノ・コルティナオリンピックの選手たちの多くが口にしてきた「感謝」という言葉。出会いへの感謝、支えてくれたすべての人への感謝の気持ちでした。皆さんが中央高等学園で過ごした日々も同じです。日々一緒に学んだ、友。見守ってくれた先生方や地域・実習先の方々。そしてなにより、今日まで深い愛情を注いでくださった家族の皆さんの支えがあって「今」があります。

人と人をつなぐ「魔法」
皆さんが日々交わり、高く評価されてきた「挨拶」と「笑顔」。それは単なるマナーではありません。相手を尊敬し、心を開き、人と人を繋ぐための「魔法」です。周囲の人々と挨拶でつながり、手を取り合っ予測困難といわれる変化を乗り越える力にしてください。

今日という「今」を生きる
未来の変化ばかりに目を取られることなく、足元を見失わないでください。自分の強みを信じ、ひたむきに今日という「今」を生きることで、中央高等学園を巣立った先輩たちが、そして皆さんが、中央高等学園の校舎で今日という1日を懸命に生きてきたからこそ、この揺るぎない伝統が築き上げられました。皆さんの輝かしい未来もまた、その「今」の積み重ねの先にしかありません。

先輩たちが磨き上げ皆さんが受け継いだこの校舎のように、雨風に耐え、自分自身の足でしっかりと立ち、今日を生きていく。その力強い歩みこそが、皆さんの道を切り拓いていきます。

卒業おめでとうございます
場所が変わろうとも、建物が変わろうとも、皆さんがここで響かせた誇り高き挨拶の声や、交わした笑顔の記憶が消えることはありません。この学び舎での思い出を心の故郷として、感謝を胸に、新しい世界へと力強く羽ばたいていってください。

3月10日(火) 新校舎通学練習日

3月10日(火)は新校舎へ通学します。目的は、大きくふたつあります。ひとつ目は4月からの新校舎への登校にむけて、通学経路を把握できているかを確認します。ふたつ目は安全の確認です。通学途中に危険なところがないか十分に確認をしてください。ぜひ、生徒同士「ここが危ないね。」「ここは、気を付けたほうがいいよ」と情報を共有してください。新校舎正門前の広い道路は交通量も多く、自動車のスピードも速いです。横断歩道であっても十分に安全を確認してください。学校前の横断歩道で、過去、事故が発生しているとの情報も入っています。



